坂田　朗さんを悼んで

坂田　朗さん(電気通信大学)．胃ガンで亡くなった（1995年5月19日午後1時)．享年53歳．

末期ガンで，手の施しようがないということを知ったのは昨年11月末.元気な彼を知る者にとっては，信じられないことだった．それはとても進みの早いガンであった．坂道を転がるごとく，ガンが進行し始めた時，彼自身，「頭がついていかないんだよ」と言っていた．死に向かって猛スピードで進み始めた体と，まだ病気にさえ慣れていない頭．最後はハワイ大のA. T. Tokunagaさんから送ってもらったTシャツを着て，ジーンズ姿で旅立った．

彼について，断片的に紹介しておきたい．

〈彼の仕事〉

彼は，天文学に化学を取り入れる仕事をした．星間塵とはどんなものか．坂田さんの提唱したQCC（Quenched Carbonacious Composite，急冷炭素質物質）の持つ性質は，星間塵の観測データと現在最もよくあう．国際学会，国際シンポジウムなどで，この自分の説を何回か報告し，世界中の研究者と討論を重ねてきた．

「自分の説を主張する」という仕事は，性格的に彼に向いていた．

〈研究者としての特徴〉

小さいころから，いろいろなモノをいじってきた．新しいモノが手にはいると，いじりまわし，体でおぼえた．工作機械の展示会などで機械を操作させてもらえるとなると，真っ先に申し出て，「社長，うまいね」と言われて喜んでいた．豊富な工作の経験が，研究の上でも役だっていた．

主張は激しいが，我慢強い．条件がはっきりしない時には進まない．QCCに関しても「はっきりしないところは言わない」と無理を避けた．「実験室で作ったQCCは，本質的なところが星間塵と似ているのであり，星間塵そのものではないかもしれない」と考えていた．QCCそのものが，星間塵と誤解されることを恐れた．

〈生き方〉

彼は，昭和41年に電通大の化学の助手として就職した．翌年，私が同じ所属の助手として採用され，彼と私は，それ以来の古いつきあいになる．

彼は顔が広い．いろいろな職種の人と知り合いだった．バレンタインデイにはどこからかチョコレートをいっぱいもらってきて，自慢げに見せびらかしていた．

彼は生涯助手でとおした（なくなる寸前，助教授に昇格したが)．彼は，博士号をとらなかた.「大学の博士課程は，博士号を与えるのと引換に，学費を払っている学生に研究をやらせている」と，日本のシステムに疑問をもっていた.「昇格には資格というのが問題で，業績や実力が問題にされない」と，怒っていた．

〈学生の指導〉

学生を大事にした.「なにかプラスを与えなくては」と，熱心に卒業研究の指導を行った．「まずは自分の性格を長所として延ばせ」と指導していた．

彼は多くの点で他人とは異なるために，苦労したことも多かった．そんな彼の夢は，「いろいろな人がいて，それぞれの個性がそれぞれ発揮できる世の中」だった．

〈研究室での日常〉

昔は，タバコを大量に吸っていた．いつでもどこでも吸えるように，1カートンずつ箱がたくさん置いてあった．しかしある時，パタッとタバコをやめた．代わりに濃い粉茶を飲んだ．薬みたいに濃かった．やがてそれが甘い，コーヒーに代わった．砂糖がたっぷりだった．あるとき砂糖をいれなくなり，そのあとは苦くて濃いコーヒーを頻繁に飲み，お客にもすすめた．

〈車の運転〉

車を動かすのがとても好きだった．古い車をうまく動かすのが特に好きであった．だから，坂田さんの車は，いつもどこかがおかしい．ウインカがうまく動かない，ギヤが少し調子がおかしい．

いろいろと他人にも説明してくれるので，運転できないくせに，私も理論だけは詳しくなった．次に動きだすときの準備をして止めておくため，他の車と止める向きが違っていたり，車輪が出発時に都合よい方向に向けてあった．

準備のよさは研究でも同じで，考えついた時にすぐ実験できるよう幅広く準備するので，部屋はついつい物があふれた．

〈坂田さん語録〉

・真実とは，事実を貫いて流れているものだ．時間には，質がある．高度な仕事や研究には，「質の高い時間」が必要である．

・独創的な仕事は，独創的な生き方から生まれる．

・豊かな感性から独創性が生まれる．まずは感性を豊かにせよ．

・「だろう」が3回重なると，技術では破壊に通じる．

・学校の試験は90点とれば優でも，技術ではいつも100点が要求される．

〈最後に〉

何しろ元気な人で，何事も楽しくやるので，周りはいつもにぎやかであった．入れ替わり立ち代わり，いろいろな人が彼の元を訪れていた．

いつまでも，悼んでいるわけにはいかないのだが，この静けさに慣れるまではどうも時間がかかりそうだ．

和田節子（電気通信大学）

寄贈図書リスト

Asymmetrical Planetary Nebulae, Amos Harpaz & Noam Soker, Institute of Physics Publishing，研究会収録，B5判，306 p

ゼミナール宇宙科学，戒崎俊一，東京大学出版会，教科書，B5判，166 p，3296円

月報だより

会務案内

日本天文学会早川幸男基金募集要項

日本天文学会　早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規に基づき*，海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（1995年度第2期）致します．

1．援助金総額　　年間約150万円

2．援助件数　　年間数件程度

3．募集対象期間　　1995年10月1日～12月31日の間に日本を出発するもの．また前回の応募時に間に合わずすでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい．

4．応募必要書類（A4紙に統一すること），原本1部，コピー5部但し(7)，(8)についてはコピー不要

(1)　応募用カバーシート（今月号次頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する）

(2)　論文リスト

(3)　観測については，観測割当通知および観測提案の写しかそれに準ずるもの

(4)　国際共同研究については，渡航先の招聘状および研究計画の概要

(5)　研究集会参加については，当該研究会開催の主旨を説明する資料，プログラム，および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの

(6)　大学院生の場合，研究指導者の意見書

(7)　航空運賃の見積書

(8)　関連研究論文の写し（一編）

5．応募締切　　1995年9月10日

6．決定時期　　1995年9月下旬

7．応募書類送付先

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
日本天文学会　早川基金募集係

＊早川基金内規（天文月報第85巻第12号参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で，原則として35歳以下の天文学研究者であって，この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者．」です．

1995年度はこの後12月，3月の10日締め切りで募集を行う予定です．応募希望者は書類等の準備をしてください．